

2024 年度 富士吉田市立第七保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2025 年 1 月 6 日（月）～1 月 31 日（金）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2025年2月21日（金）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	「おもいっきり遊ぶ おもいっきり学ぶ」の保育理念に則り、年齢ごとの子どもの発達を理解することに努めた。子どもひとり一人の気持ちを受容し寄り添うこと、子どもの気持ちを汲み取る事の大切さを全職員が改めて学び、同じ方向を意識した保育園作りをしていくようにした。
子どもの発達援助	各クラスの子どもたちの姿について毎月情報共有する中で、互いに刺激し合い保育内容を検討する事が出来た。縦の連携を取ることで、一体感を感じ、全体での取り組みを行えた。
保護者に対する支援	共に子育てしていこうという姿勢を大切にしながら、保護者の気持ちに寄り添い、丁寧に関わることが出来た。また、保育参加を通し、園での姿を知らせたり、親子で楽しめる機会と共に、懇談会を通して保護者同士のコミュニケーションの場を設ける事も出来た。
保育を支える組織的基盤	発達について理解を深めたり、今、子どもたちが何に興味があるか等、子どもの最善の利益についてのミーティングを定期的に行うことが出来た。それらを、園全体で共有する中で保育・給食・看護の 3 つの担当が協力し合い更なる質の向上を目指していく。

総評
年間の活動を通して保護者参加を多く取り入れ保育内容の発信を行うことが出来たことや、子育て支援の実施をとおして地域との関りが持てた事は地域の保育園として一歩前進できたと考える。又、食育では新たな取り組みとして、行事の伝承、畑の活動を行った。これらの活動を全体で取り組む事で、保護者・子ども・職員の三者が共に子育てを楽しむ姿が見られた。次年度に向けては、年齢に合わせて主体的に遊びだせる適切な環境を整え、安全、安心な生活が送ることが出来るように保育の質の向上に努めていきたい。